



民主 苦小牧号外
2026年
9.6
No.1155

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!



錦岡の太陽光発電事業で怒声

しんぶん赤旗の「2050年、カツ丼がなくなる!?!」という見出しに、私は目が留まりました。大好きなかつ丼がなくなるのは悲しいと思い、記事を読みました。「地球温暖化が進んだら?」という視点から、2050年8月の日常を科学的知見に基づいて予測した“2050年の天気予報”で、カツ丼がなくなると予言しているのです。

これは、2050年の天気予報製作委員会が作成したものです。製作委員会には、200社以上が加盟している日本気候リーダーズパートナーシップという団体など複数の団体が参加して作成しています。

では、なぜカツ丼がなくなるのでしょうか? 2050年8月には、40度を超える酷暑が157地点にもなり、お米が育たず、牛・豚・鶏の生産も大きく減るそうです。なので、「昔からの庶民の味であるカツ丼が、気軽に食べられなくなった」ということです。

また、午前11時から午後3時までは「外出自粛令」が出され、学校や保育所はお休み、日陰のない農作業や屋外での建設作業などもできません。熱中症患者が増えて救急車が足りず、到着を1時間も待つことになります。

スーパー台風も上陸し、最大瞬間風速は100m/sと、屋根が剥がれたり、鉄塔が倒れるなど非常に危険な状態となり、5mを超える津波のような高波も予想されると報じています。今年は、熱波がヨーロッパを襲い、ネパール・中国国境では大雨・洪水被害が起き、多くの犠牲者が出る危険な状態です。日本も他人事ではありません。

苦小牧市は、錦岡地域の太陽光発電の計画を発表しました。太陽光でつくった電力を企業が使うという、“電力の地産地消”の仕組みであるため、大切な取り組みです。しかし、地域住民の理解が得られなければ進めるべきではありません。私は、住民が反対した場合は計画を中止するよう求めています。

住民説明会の結果、反対意見が多く計画は中止になりました。一部の参加者が怒声をあげ、異常な事態になったそうです。怒声の理由はわかりませんが、“2050年の天気予報”のような事態になるかもしれないことを、どのように考えているのでしょうか。今、何かしなければ地球に住めなくなってしまいます。怒声ではなく、真剣に地球のことを考える機運が必要だと思いました。